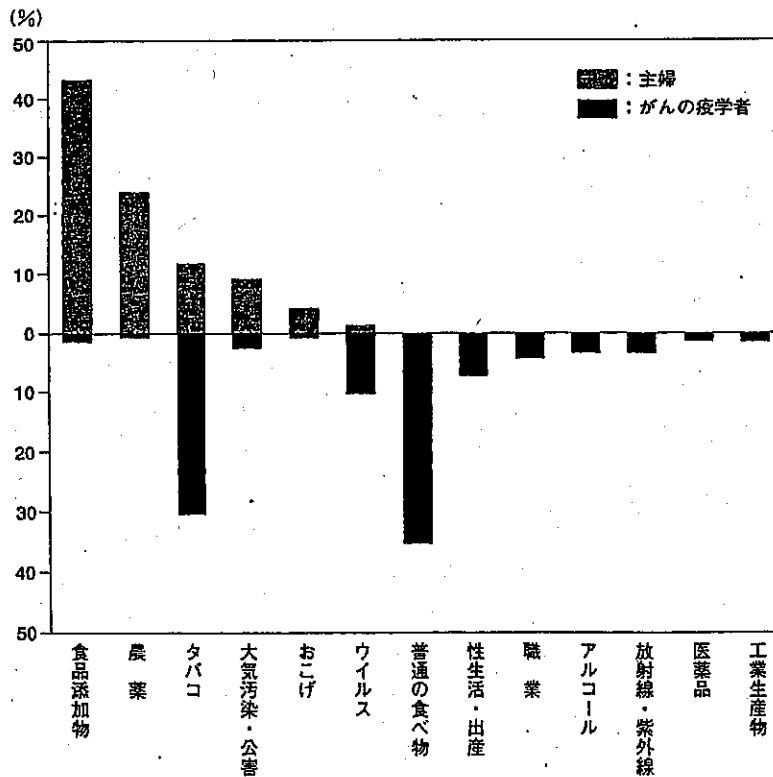


## 消費者と専門家の認知ギャップについて

がんの原因について、主婦とがんの疫学者の考え方の違い

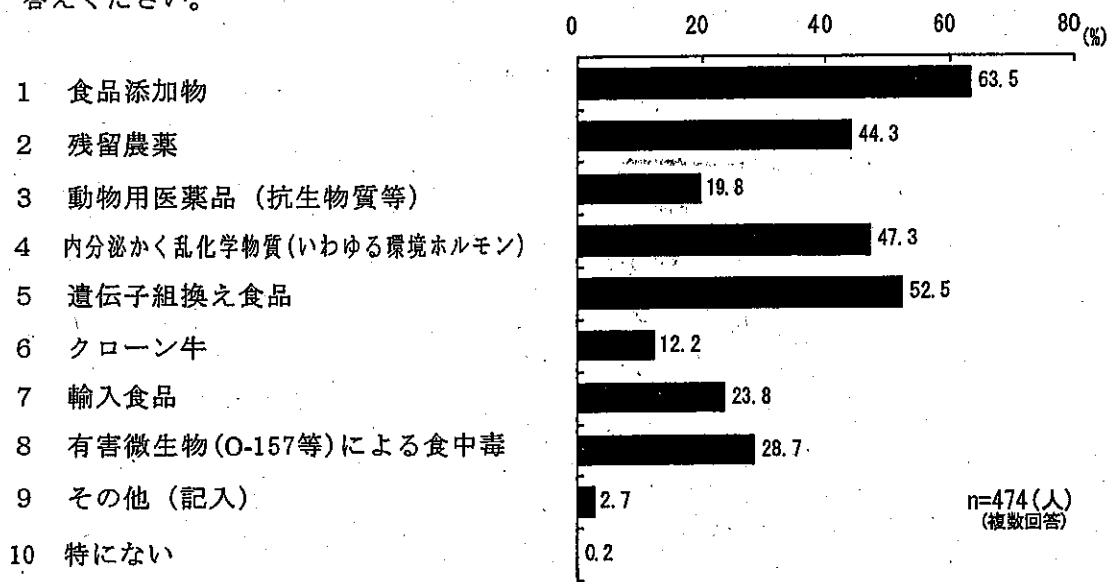
がんの原因については、一般消費者(主婦)とがんの疫学者とで考え方が違うといわれる。がんの疫学者は、日常の食事と喫煙が主な原因であり、農薬からの寄与はほとんどないと考えている。



平成12年度第2回東京都消費生活モニター・アンケート調査結果（抜粋）  
（東京都生活文化局）

質問内容と集計結果  
食品の安全性

問1 食品の安全性に関して、今あなたが特に不安に感じていることはありますか。次の中から3つ以内で、お答えください。ただし、特にないという方は「10 特にない」だけをお答えください。



食品の安全性に関して、特に不安に感じていることとして、「食品添加物」とした回答が最も多く(63.5%)、以下「遺伝子組換え食品」(52.5%)、「内分泌かく乱化学物質(いわゆる環境ホルモン)」(47.3%)の順となった。

「その他」としては、“企業における食品安全確保への取り組み”などがあつた。

男女別でみると、「動物用医薬品(抗生物質等)」(男性10.2%、女性23.7%)、「有害微生物(O-157等)による食中毒」(男性40.1%、女性24.0%)で差がみられた。

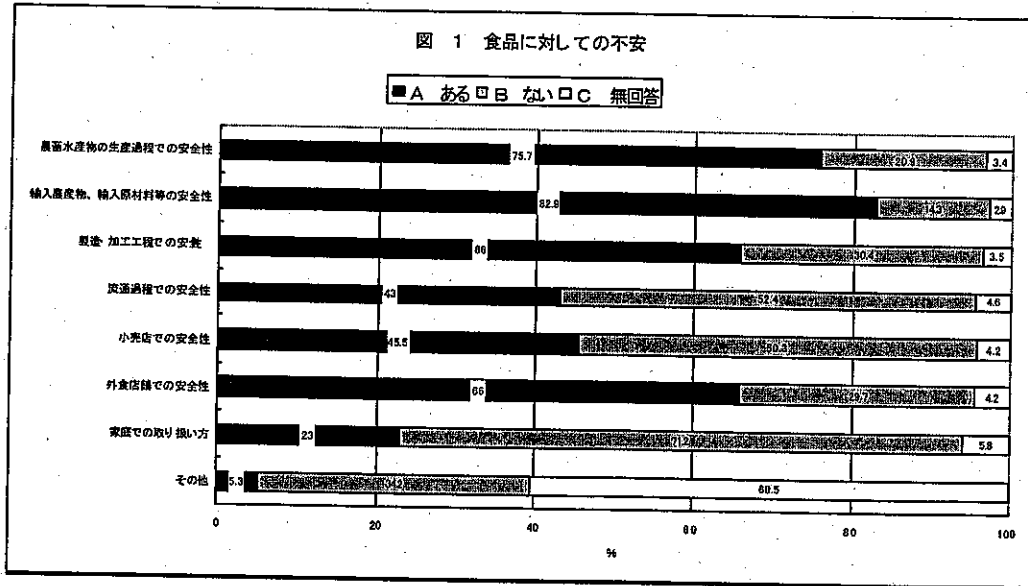
年代別でみると、「食品添加物」と答えた人の割合が20歳代で高く(20歳代75.3%、30歳代64.0%、40歳代60.9%、50歳代62.3%、60歳以上53.8%)、「有害微生物(O-157等)による食中毒」と答えた人の割合が60歳以上で高かつた(20歳代29.4%、30歳代28.6%、40歳代25.3%、50歳代18.0%、60歳以上40.0%)。

## 平成13年度第3回食料品消費モニター調査結果（抜粋） （農林水産省）

### テーマ 2. 食料品の安全性について

#### 食品に対しての不安

食品に対して不安があるかそれぞれの項目ごとに聞いたところ、不安が「ある」という回答が最も多かった項目は、「輸入農産物、輸入原材料等の安全性」で82.9%、次いで「農畜水産物の生産過程での安全性」75.7%、「製造・加工工程での安全性」、「外食店舗での安全性」が同率66.0%となっている。一方不安が「ない」という回答が最も多かった項目は、「家庭での取り扱い方」が最も多く71.2%、次いで「流通過程での安全性」52.4%、「小売店での安全性」50.3%となっている。（図 1）



（注）グラフは左からA・B・Cの順に並べている。